

9月議会がはじまります

市政の主役・主権者として市議会を傍聴しましょう

日本国憲法は地方自治について重く位置づけています。本来、国は日本国憲法の「地方自治の本旨」にもとづき地方自治体の自主性・自立性を尊重し、必要な財源を保障して、住民の命と暮らしを守る取り組み、地域再生の取り組みを全力で応援すべきです。しかし、国は大企業や大資産家への応分の課税を怠り、公の役割を後退させ、医療も介護も教育も水道も下水道も、文化・芸術も農業も障害者福祉も公共交通も地方自治体に対して十分な財政保障をしていません。

そのようなもとでも団体自治と住民自治を発揮して、住民の福祉増進をはかる市政を展開する自治体も存在しています。

日本国憲法は地方政治について、それぞれ主権者から選出される首長と議会を二元代表制として位置づけています。議会は市長の附属物ではなく、市長、行政に対峙して、同等の立場で、より良い市政をめざすのが議会の役割です。

根源的に民主主義とは民が主役です。一人一人の市民が川口市をどうするのか、市政の主役として考えるうえで、二元代表制の一翼を担う市議会がどのような役割を発揮しているか傍聴にお出かけください。令和8年9月定例会は、9月1日(火)の午前10時から開会する予定となっております。

9月定例会の日程(予定)

- 開会 9月1日(火)
- 一般質問 9月10日(木)、11日(金)、14日(月)、15日(火)、16日(水)
- 常任委員会(環境経済文教) 9月18日(金)
- 常任委員会(建設消防) 9月18日(金)
- 常任委員会(総務) 9月24日(木)
- 常任委員会(福祉保健) 9月24日(木)
- 閉会 9月29日(火)

2026年8月23日

No.1849

日本共産党川口市議会議員団

川口市前川 2-28-10

TEL.267-8411 FAX.261-3528

https://www.kawaguchi-jcp.jp/

新川口

金子ゆきひろ 松本さちえ 板橋ひろみ ふじしまともこ

小中学校の再編計画案

の審議はじまる

川口市立小中学校在り方審議会の第8回目の会議が、8月6日に開かれました。2025年度に策定された「川口市小中学校適正規模・適正配置基本方針(改訂版)」に基づき、川口市立小中学校の再編計画と、地域別再編推進プランの議論が始まっています。

審議会で示された資料では、答申案で川口市の人口推計値は今後約50年後を見通し、2026年から2070年にかけて小学校は約7000人、中学校で約4000人減少すると試算されており、そのため市内の必要学校数も減少する見込みと案文に示されています。

そして将来的な市立小中学校の想定必要数と計画策定にあたっては、地域住民及び学校との十分な連携を図ること、全学級が2学級程度の規模(小規模校)になることが予想される学校は、義務教育学校の新設も含めて必要学校数を検討するともあります。

さらに適正な学校数を導き出すため、適正規模・適正配置基本方針による「適正規模校」(小学校12～24学級・中学校12～24学級・義務教育学校18～36学級)での考え方について下図のように示し、将来的な必要学校数を小学校約31校、中学校約17校を方針とし、市民の声を聞きながら策定を進めるとしています。

2070年度時点での児童生徒数

小学生(7～12歳) 22156人

中学生(13～15歳) 10938人

+

22156人÷720=約31校

+

10938人÷630=約17校

※小学校(1学級30人×学年4学級=1学校約720人で試算)

中学校(1学級35人×学年6学級=1学校約630人で試算)

今後も審議会での議論が継続されます。地区別の見通しも示されており、学校の在り方について住民・地域とともに議論を進める必要があります。

広島で8月4日～6日に「原水爆禁止世界大会」が開催されました。ふじしまともこ市議が参加したので報告します。



▲初日のアメリカの青年



▲反核医師の会の方々と



▲武本先生のスライド



原水爆禁止世界大会 2026・広島

初日は広島県立総合体育館・グリーンアリーナで開会総会あり、世界中から平和運動をしている方々が登壇し挨拶とセッションをしました。アメリカから来た青年が「平和とは戦争の無い状態の事ではなく正義と安心がある状態の事だ」と言っていたのが印象的でした。

他にも環境活動家の武本匡広さんが、ヨットで仲間たちと共にガザに物資を届けようと航海している時にイスラエルの攻撃に遭い、多くの仲間が囚われ、3日後に解放されたものの拷問や暴行を受けており、即日病院行きになったと。イスラエルは人種差別の国で日本はそこに加担しているということ。知ることが大事だと、武本さんは各地で講演をしているそうです。

2日目の分科会では「気候危機・エネルギーと原発」の講座で初日にガザ支援の大冒険の話をしてくれた武本匡弘さんが発言者で感激しました。プロダイバーの武本さんは「海から見たらよくわかる」と地球温暖化と、海洋プラスチックによる生物が生きられない状況を伝えて、「資本主義こそ臨界期」ほんの歴史の1ページなのに地球がもたなくなっていると。資本主義を乗り越えようと言います。原発に頼らずとも自然エネルギーで十分やっていける。と自信を持って!との発言に希望をもらえました。

最終日の閉会総会は、初日と同じ会場で被爆者の方のお話があり、4歳で被爆した男性が定年後に平和ボランティアとなり、原爆資料館でアメリカ兵の涙を見て気持ちが変わった話は胸に迫りました。戦後に被爆者の母から生まれた子が白血病で夭逝し、母も長生きできなかった話を聞いて、放射能により戦後も人を苦しめ続ける原爆の酷さが伝わりました。原子力は人間の手には負えない。無くさなければならぬと改めて強く感じました。

大会全体を通し、今が人類存亡の危機であることと、国際的な平和の取り組みが希望であることが伝わりました。



▲フィナーレ



▲2日目の武本先生



▲最終日の被爆者の方のお話